

# ■学校規模適正化検討委員会 江田島市の学校に関する説明会報告

## 1 目的

学校の在り方に関する保護者アンケートの実施に当たり、もっと詳しく江田島市の学校の現状を知っていただくため説明会を実施しました。

## 2 実施概要

日時	開催場所	参加人数
12月15日(月) 19:00~20:00	切串交流プラザ	8人
12月16日(火) 19:00~20:00	江田島保健センター	3人
12月17日(水) 19:00~20:00	能美市民センター	5人
12月18日(木) 19:00~20:00	三高交流プラザ	2人
12月19日(金) 19:00~20:00	大柿市民センター	11人

## 3 質疑内容

### (切串交流プラザ)

参加者：私立中学校に通っている子どもは何人くらいいるか。

事務局：各校、年に1人か2人いるかどうかくらいです。

参加者：アンケートの結果はそのまま反映されるのか。

事務局：アンケートの結果を参考にして多数決ではなく、統廃合検討委員会の方に諮り、意見を交わし、実際どのようにしていくのが良いか検討する材料とします。

参加者：11月に市P連の事業として、各市町の小・中から代表として2人能登半島へ子どもが被災地の視察に行った。江田島市からは2人、呉は3人とか。広島市以外の市町から代表する子どもが行った。小規模で伸び伸び育つことがよいと思っていたが、大きい市の子どもたちは自分から声をかけて行動していた。江田島市・安芸高田市・庄原市などは声がかかるのを待っている状況だった。クラス替えの体験が生きているのではと感じた。小規模が良いとは思っているが、クラス替えがないのは、不利なところもある。

参加者：規模適正化は多すぎず、少なすぎずというところだが、県からの圧力はどのくらいかかるのか。

事務局：県からの圧力はありません。学級数が減ると教職員は減ります。市費での対応も人材の確保が難しく、任用も困難な状況です。

参加者：教職員は規模が小さくなると業務量が多くなると思う。県内と比べて江田島市の休職率は高いのか。

事務局：休んでいる職員はいますが、業務量が多いからといって休んでいる人はいません。

参加者：移住で切串を選んだ保護者は少人数のこじんまり感が良くて移住されたのです

か。

参加者：小学校までの距離感だとか、中学校はバスがあるとか。でも、バスに乗せる不安はある。

島ならではの少人数で、一人一人を見てくれると思った。

参加者：こどものためにはどういう方向に向けていくのがベターか。

事務局：これまで、高田小、三高小、柿浦小、大古小、福山の小学校に務めてきました。1クラス40人を超えるとしんどいところはありますが、逆に10人以下になってきたときも厳しいなと感じています。

できればクラス替えの経験はあってほしいし、ある程度の人数がほしいとは思っています。

参加者：自分自身が安芸区のマンモス校に通っていた。

伸び伸び感が全く違う。江中までのバスは切串のこどもは楽しく乗っている。

統廃合は江田島市全体にかかってくる。私らだけの問題ではない。こどもらの環境を考えていかないと。統廃合が進むと地域の方の意見が出てくる。

参加者：他の地域の統廃合でかなりもめたと聞いている。多数決で決めるものではなく意見を集約するのだと思うが、決まった後に通知があるのか。

事務局：アンケートの結果をHPに公表、今後、委員の方と竹原市に視察に行く予定です。学校規模適正化委員会で意見を集約し、教育長に答申を行います。

今回のアンケートは保護者の意見を聞くために実施しました。

三高中を閉校するまで14年かかりました。

地域の同意を得られないまま議会の議決に至りました。

参加者：将来的には島で小学校1校、中学校1校になるのではと感じている。

最終的には小学校1校、中学校1校になりますでしょうかという方が、保護者は考えやすいのでは。

事務局：これまで2回適正化検討委員会の会議を開催しました。

今年度、市内出生数は51人という現状にあります。

最終的に江田島市の学校はこういう風になるというところまで決めていきたいと考えています。

参加者：私たちは今こどもが小学生で、統廃合が決まる頃にはもうこどもは小中学校にいない。その方たちの意見をきいた方がよいのでは。

事務局：小中学校、認定こども園、未就学のこどもがいる家庭に約1,000部配布しています。

参加者：いずれは統廃合になるという感覚はある。切串小学校も複式学級があり大変だと思う。

事務局：複式学級があると教頭が担任を持たなくてはならない場合もあり、負担がかかっているが、先生方は少人数でも頑張っています。

参加者：いじめの現状は。いじめが起きたときに、他校へ移る等、逃げ道があった方がいいと思う。

事務局：クラス替えや他校へ転校等、逃げ道はあった方がいいと思います。

早めの認知に努めているため、件数は増えています。未熟な子ども同士なので、トラブルはどうしても起こります。学校も保護者とともに解決しようとしています。

### （江田島保健センター）

参加者：認定子ども園も人数が段々きびしくなっている。女の子の人数も偏り、20人弱のうち2人しかいない。

今は問題ないが、思春期になってくると、男の子が女の子を意識したときに、その比率っていうのは考えるものがあるなど思ういます。

事務局：今年の江田島小学校の1年生も人数比がだいぶ極端でした。男の子がすごく多いイメージがあります。

参加者：この間聞いた話なんですけど、すごく先走ってから鹿川小学校と中町小学校がもうくつつくらしいという話で、どこで聞いたのか聞くと、なんか保護者がずっと言っていて、中町がなくなって鹿川に行くんだってみたいなの。

事務局：そんなことはうち（教育委員会）は全然言ってないです。

参加者：認定子ども園ですごく仲良かった子が、小学校にあがって別々の学校になるっていうのはすごく矛盾を感じる。

事務局：認定子ども園のうみのお子さんは中町と鹿川に分かれてしまうことが起きてしまうと思います。

### （能美市民センター）

参加者：今後会議を重ねてくうえでどのくらいのスピード感で決まっていくのか。

事務局：検討委員会自体が2年間かけて行っていくものです。

アンケートを取り、それを集計したうえで委員にも集まってもらいアンケートをみて話をしていきます。来年度の半ばには委員が意見を取りまとめてそれを市の教育長に対して、委員会ではこのような案になりましたというものを提示します。それを皆様に報告します。

今度はそれを基に地域の方の理解を得ていきます。江田島市は過去2回このような話をしている、その都度統合する・学校残すなどの案を出してきました。案が出たからといって、すぐ統合できるわけではなく、地域の方々の反対もあります。昨年度、三高中学校が統合したが、その統合の方針が出たのは十数年前、十数年前には能美中の完成とともに三高中を統合する予定でした。

しかし地域の方からの同意を得ることができず、最終的には昨年議会議決をもって統合しました。14年ほどかかりました。委員会の意見が固まったからと言ってすぐ動き出せるというわけではありません。相当長い時間がかかると思っています。子どもたちの状況を見たときに、子どもの数の減少スピードが想像以

上に早いので、できれば早く意見をまとめて実際に動きたいという思いはあります。

参加者：児童数の減少を見てとてもショックを受けた。今下の子が中3だが、高校生になると島外に出るようになってしまう。上の子は学校の先生になって島に帰ってきたいと言っている。この状況で実際には帰って来れないのではないか。先生が採用されにくくなるのではないか。

事務局：江田島市に配属されるかは別として、県での採用になります。国のきまりで市に必ず1つは学校を置かなければなりません。学校数は減ったとしても学校がなくなることはありません。

参加者：なぜこんなにこどもが少ないのか。

事務局：一番は全国的に少子化が止まっていないというのが一番の理由ではないかと思います。ここ数年急激に減少しており、理由は、団塊世代のジュニアという年代（40代中頃から50代）がまだある程度いたとき、こどもがある程度生まれていたときは、人数はどうか維持できていたのかもしれませんが。しかしながら、その年代より下の人たち（20代30代）は一気に人数が減っていきます。この人たちはちょうどいま親になっている年代です。ここの年代の人数は日本全国で見ても少ないです。そうすると当然生まれてくるこどもの人数も少なくなり、そのことも減少の一因ではないかと思っています。そういうこともあって全国的に減ってきているのだと思います。なので高校も再編を急に進めています。

参加者：鹿川小学校が複式になると知ってショック。鹿川小の学区に住んでいる。こどもが今、年少で、6年後に小4になる。そうなったら3・4年生で複式になる。複式がどうこうというわけではない。お兄ちゃんが鹿川小2年生。鹿川にあまりこどもがおらず保育園でみんなでわいわいしてたのに小学校で中町と鹿川で分かれてしまうのは何とも言えないなという気持ちもある。

事務局：こども園が1つなのに能美の場合は小学校が2つになるのはどうなのか。それらを1つにできないのかという意見はあります。

参加者：お兄ちゃんの学年が12人くらい。そのうち3人しか女の子がいない。3人のうち2人は双子。もう一人は沖美の方にいる。一緒に遊べる時間がなく、他にもいろんな子がいたら固定化されないのではと思ったりする。せっかくみんなで楽しく保育園で6年間いて、前は一緒だったのになど、寂しくなる気持ちもある。鹿川小と中町小が早く一緒になればいいと思う。ただ、せっかく小学校の近くにお家建てたのにという人もいると思う。そのあたりはどのくらいのスピード感で進めていくのか分からないのでなんとも言えない。

事務局：できるだけスピード感をもって進めていけるように努めます。

参加者：うちも鹿川だったが友達が沖美だったから一緒に遊ぼうとしても親が連れていくなどしなければいけない。校区外ではないけど、自転車で通ったらいけない、山を越えたらいけないなどある。

事務局：今は昔と違って校区も広がってきているので柔軟に考えなければいけないが、昔のルールが残っている部分もある。今こどもたちは家に帰っても近所に遊ぶ友達がいません。そうすると児童クラブに行っても学校に残っている方が遊ぶ時間はあるんだろうなと思いますし、難しいと思っています。

参加者：遊ぶ場所が少ない気がする。小さいときの自分を思い返したら、遊ぶ場所が少なくなっているなど感じる。こどもたちだけで遊ばせると、特に小さい子だけだとイノシシとか出てきても怖いので親もついていないと心配。

鹿川で言ったら公園があるじゃないですか。ですが私の家が公園から道路を挟んだ向こう側にあるので、まだ小2のこどもを一人で道路を渡らせたくないという気持ちがある。一人で公園に行くということをしていない。大きくなったら自転車に乗っていく子がいたりするが、やはり心配なところもあるし、安全に遊べる場所も確保したいなという気持ちがある。小学校で遊べるときもあるが、行事や駐車場としてグラウンドを確保しているときは遊ぶことができない。寒かったり暑かったりで遊べないときもあるので、どこで遊ぼうか困る。低学年だからかもしれないが遊び場が少ないと思うことが多い。例えば高田小学校の体育館などの屋内で遊べるような場所があればいいと思う。

事務局：ぜひアンケートに書いていただきたいと思います。

### (三高交流プラザ)

質疑なし

### (大柿市民センター)

参加者：小中一貫校のメリット・デメリットについて聞きたい。

事務局：メリットとしては、小学校と中学校が連携することで、例えば中学校の専門的な教科指導ができる先生が、小学校で授業することができる。また、小学校時代に問題があった児童は、中学校に上がったとき、小学校の先生と一緒に指導ができます。

ただ、一方で、9年間人間関係は固定化される。9年間人間関係が変わらないことをよしとするか、それとも中学校で新しい人間関係の集団を作ってあげる方がいいか。しかし、現状は小学校の集団がそのまま中学校へ上がっているため、その辺りも保護者の方々がどう思われているかお聞きしたい。

参加者：旧町単位ではなく、市全体として親に選択肢があってもよいと思う。

例えば、うちの子は9年間一貫してみてもらいたいから義務教育学校へ入学させたいとか。都市部と地方の田舎で決定的な違いとして、選択肢が多いか少ないかだと思う。特に教育に関して感じている。

その選択肢として、例えば大柿地区だけ義務教育学校とし、能美地区・江田島地区は現状のままとする。入学時に明確な希望があれば希望校に入学でき、6年間過ごす中で人間関係が難しくなったら、他校を選択できるといったような、その子の希望に応じた学校の在り方が理想だと思う。

事務局：義務教育学校と今まで通りの小学校・中学校を存在させていくことが市の規模

として可能かどうかは、検討していかねばならないが、こどもたちにある程度選択肢があることは保護者の方やこどもたちにとってよいと思います。ただ、1クラスの人数自体がそこで変化するわけではないという実態がある中で、両方もそれぞれが減っていくことをどう考えたら良いか、色々なパターンを検討してみないと難しいと思います。

参加者：本来なら地元に戻ってきたいが、こどもの教育のことがあるから都市部で生活するという方の話をたくさん聞く。江田島市が特色ある教育を行うことで選択肢が増えれば、島に戻って子育てをしてみるといった一つの動機付けになると思う。現時点ではこどもの数が減っていくことが見えているし、何かアクション起こさないと増えない。その一つとして教育の選択肢のようなものが入ってくるとよい。企業誘致は難しいと思うが、教育は皆にある程度のメリットがあると思うし、市が主導してできると素人ながら考える。若い子育て世代を引っ張ってこられるきっかけにもなればよい。

事務局：「義務教育学校もある」ということですか。

参加者：広島市から1時間の位置にある。若い世代はこどもの教育が一番ネックではないかと考える。観光による交流人口が増えるだけでなく、特色のある教育についても提唱してもらえればと思う。

事務局：それも検討材料の一つとして考えていかねばならない。

仮に義務教育学校が今の校舎でできるとすれば、大柿中学校しかない。義務教育学校を選択肢とすると色々考えさせられる。人口減少を考慮すると、果たして二つの学校が作れるかどうかということも考えていかねばならないので、ぜひ、検討委員会の中でそのような意見も交わしていきたいと思います。

参加者：実は、検討委員会の中で今の意見は最初に出た。江田島市のこれからの学校の在り方と同時並行して未来に希望がある教育の在り方についても示した方がよいという意見も出てきている。私も委員の一員である。今日の意見の中で感じたことは、「学校」とは非常に希望があると思う。都市部には都市部の良さがあるし、田舎には田舎ならではの教育の在り方がある。この魅力をしっかりと熟し、皆が魅力を感じるような学校の形にしていこう。

事務局：もし再編するになったとしても、単に減らすことではなく、更に魅力ある学校をどう作っていくか、委員の方々から意見をいただきながら目指していきたいと思えます。

参加者：江田島市のこどもたちは、みんな平等で仲良しだが、社会に出るときはある程度競争ということは出てくる。例えば学校交流で切磋琢磨させるとか、競争心を育む経験をさせておくことが大事なのではないか。今の小人数の学校をみていると、少し不安を感じる。

事務局：例えば、小学校では陸上記録会を行っています。各校から集まり、種目別でスポーツを競い合うことを行っています。中学校では合唱祭を行っています。3中学校が集い、一緒に歌を競い合いますが、今年度は、人数が少なくなり開催で

きていません。できるだけ皆が集い、互いの意見や取り組みに触れ、自分たちもやってみたくらいという刺激を受ける機会を作りたいと思っています。今日見ていただいたさとうみ学習は、今回5校がこの場に集い、互いの取り組みを発表して、刺激を受ける場面を作っています。今後もそういった機会を創出したいという思いで、どの学校も取り組んでいます。その他、小学校の修学旅行も、西と東で二つに分かれて連合で行っています。意見のとおり、色々な子と触れ合いながら切磋琢磨できる環境というのは、日常的に作れないとしても、今のできる範囲でやっていきたいと思っています。

参加者：コミュニティスクールについて伺いたい。コミュニティスクールの取組は、広島県内で広がっているのか。

事務局：広がっています。コミュニティスクールは、全国的な取組ではありますが、市内においても今年度で全ての学校がコミュニティスクールを設置するという形です。大柿地区では、大古小学校と大柿中学校がコミュニティスクールを設置しています。今までは、学校評議員といい、3人くらいの方に学校の様子を見て評価をいただいていたのですが、コミュニティスクールでは、もっとたくさんの方に集まっていたらいい、一緒になって子どもたちの課題について話し合い、何かしら一緒にできることを考えていくことをやっています。

参加者：今、コミュニティスクールの委員として、花壇ボランティアをさせていただいて、とても良い取組だと思う。その他、今日見せていただいた「さとうみサミット」も知らなかった。保育園児を小学生の子がいるが、そういった活動を知らなかった。内容がすごく素敵だと思った。本説明会を録画しているのであれば、今日来てたくても来られなかった保護者に向けて配信してはどうか。

事務局：ありがとうございます。さとうみ学習については、映像も綺麗に仕上がっているので、たくさんの方々に見ていただきたいと思います。

参加者：クラブ活動について、地元の中学校に入りたくらいクラブがなく、他校へ行かざるを得ないという現状について伺いたい。

事務局：少子化問題とか部活動の問題、学校の働き方改革も含めて、部活動の地域展開を今考えています。子どもたちが各校で活動することができなくなり、市全体でどうにかできる環境を作っていきたい。ただ、壁となっているのが、指導者の確保と移動手段、これがかなり難しく、例えばサッカーを能美中学校とし、大柿中学校と江田島中学校の生徒は能美中学校へ移動する一方で、野球は大柿中学校で行うこととし、能美中学校と江田島中学校から移動することになれば、バスの本数がとんでもない数となり、更に小学校の下校時間と重なると回らない現状があります。また、部活終了後、帰宅する際、保護者の協力がどこまでいただけるか。検討はしているが、でも、困難な状況をどうにかしたい。つまり、島にいて運動もできない、好きなスポーツができないことはすごく寂しいので、今、検討委員会の中で検討しているところです。

参加者：スポーツもだが、吹奏楽も通常は自分たちで活動して、週に1度合奏ができる

環境があればよいと思う。今までMIKANマラソンに出ていたが、今年はいなかった。人数が少ないからか、理由は分からないが。吹奏楽がやりたいから、私立学校へ入学するという話も聞く。

クラブ活動だけ保護者や地域の方に指導していただけないのか、例えば野球とかサッカーとかのコーチとして協力いただけないのか。

事務局：既に取り組んでいます。中学校では柔道部は地域の方にずっと指導していただいております。陸上部とかテニス部もそうです。テニス部は週末だけですが、そのように地域の方にどんどん参画いただいております。

ただ、放課後の時間（4時半）とか、この時間活動できる方がなかなか見つからないという課題があります。今5名いますが、その内3名は元教員です。

#### 4 説明会の様子

##### ○切串交流プラザ



##### ○江田島保健センター



##### ○能美市民センター



##### ○三高交流プラザ



##### ○大柿市民センター

